

KML/KMZ ファイルの直接使用

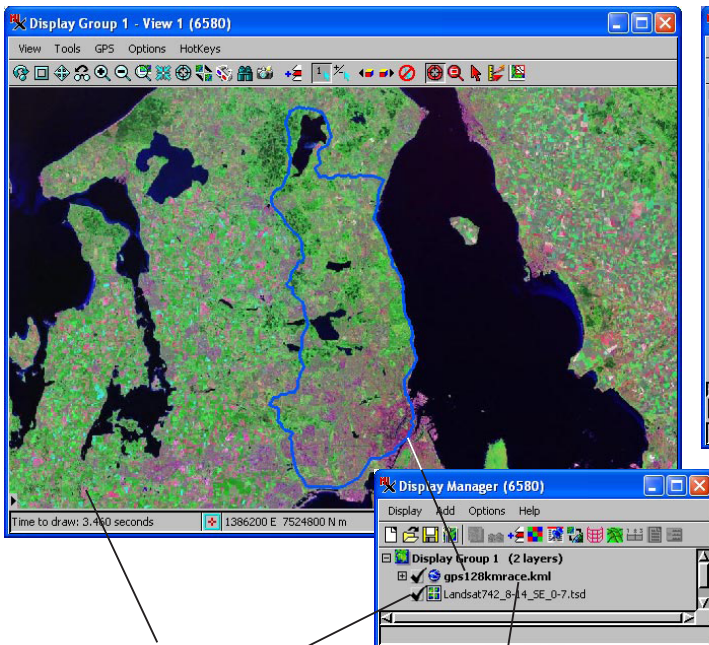
KML または KMZ ファイルを使うと、自分の地理データを Google マップや Google Earth との間でやりとりすることができます。TNT 製品では KML ファイルの作成および使用のための多くの方法を提供しています。個々のオブジェクトを KML ファイルにエクスポートしたり、1つのレイヤやレイヤ全体を KML または KML ファイルの圧縮バージョンである KMZ にレンダリングすることができます。KML や KMZ ファイルを逆にプロジェクトファイルにインポートすることもできます。ローカルまたはネット上の KML や KMZ ファイルはまた、TNT の様々な処理で**直接的に表示したり使用することができます**。KML や KMZ ファイルが今回、直接使用できるファイルに仲間入りしました。(参照:テクニカルガイド「[システム:地理データファイルの直接使用 \(System: Direct Use of Geodata Files\)](#)」)

KML や KMZ ファイルを表示レイヤとして直接使用することによって、次のように便利になります。

- 他の人から貰った KML/KMZ ファイルを自分のデータと組み合わせて見る。
- Google マップで公開用マップとして作成、保存した My Map 一覧から KML/KMZ ファイルを表示する。
- Google Earth や SketchUp を使って作成した KML/KMZ ファイルの表示。
- 任意ソースの KML/KMZ ファイルを WMS や ArcIMS レイヤと組み合わせて表示する。

- インターネットから直接アクセスできるタイルセットと組み合わせる。
- TNT ユーザに KML/KMZ ファイルを渡し、ローカルまたはインターネット上にある地理データと組み合わせる等。

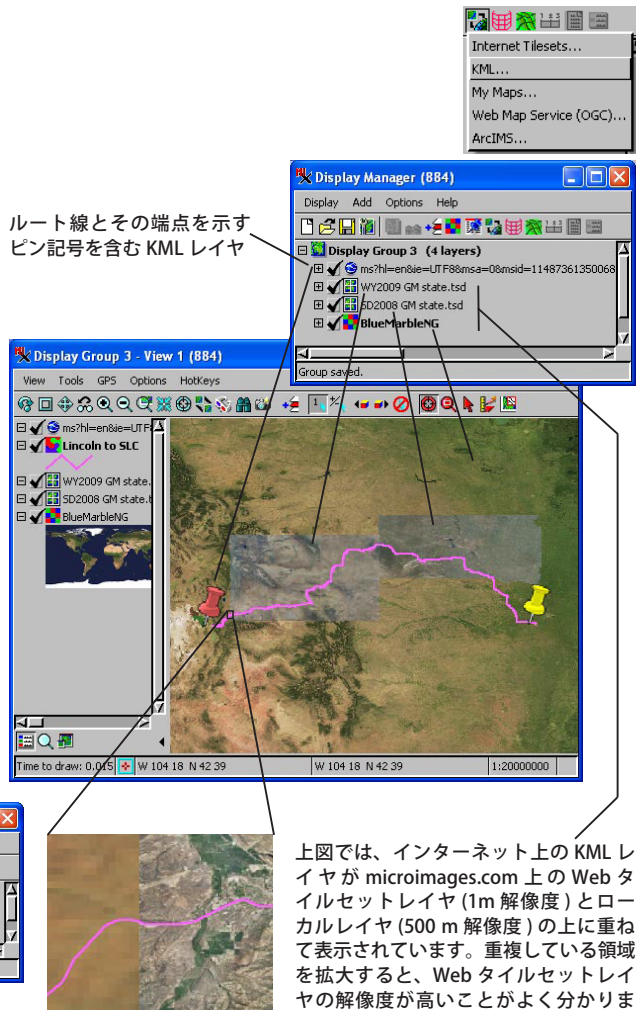
TNTmips で使う KML/KMZ ファイルは、ネットワークドライブを含めてローカルドライブやインターネット上にあつて構いません。ローカルの KML/KMZ ファイルはプロジェクトファイル内のオブジェクトや直接使用可能なファイル、TSD ファイルを持ったローカルのタイルセットと同じに選択できます。選択には、[オブジェクトの追加 (Add Objects)] アイコンなどを使用します。インターネット上にある KML/KMZ ファイルは、表示やジオリファレンス、編集処理などの、Web レイヤをサポートする処理の中の [Web レイヤの追加 (Add Web Layer)] アイコンを使って追加できます。



ランドサット 742 バンドを使った 10m 解像度のフォールスカラーインターネットタイルセット (microimages.com にて公開中)

デンマークの 128-km の自転車レースのルートを表わす KML Web レイヤ

ルート線とその端点を示すピン記号を含む KML レイヤ



上図では、インターネット上の KML レイヤが microimages.com 上の Web タイルセットレイヤ (1m 解像度) とローカルレイヤ (500 m 解像度) の上に重ねて表示されています。重複している領域を拡大すると、Web タイルセットレイヤの解像度が高いことがよく分かります (左図)。